

1) わが国の慢性透析療法の要約

日本透析医学会は、1968年から毎年毎に、全国の透析療法施設を対象に統計調査を行っている。この調査は二種類の調査から成り立っていて、一つは透析のベッド数、スタッフ数、患者数などの施設背景に関する調査（施設調査：シートⅠを使用）である。もう一つは個々の患者に関する調査（患者調査：シートⅡ.Ⅲ.Ⅳを使用）である。

2010年末の統計調査は全国の4,226施設を対象に実施され、4,152施設から回答が寄せられた。2009年末から19施設の増加である。施設調査であるシートⅠの回収率は98.2%、患者調査であるシートⅡ.Ⅲ.Ⅳも含めた回収率は95.6%であった。調査に協力賜った各施設のご好意に対し、紙面をお借りして深甚なる感謝の意を呈したい。

これらの調査結果を集計した2010年末のわが国の慢性透析療法の現況を速報版として報告する。なお、この図説（速報）に掲載された患者数などは速報値であり、さらに年末までに追加・修正されたデータを基にCD-ROM版として配布される。昨年までの図説では、施設統計・患者数などの増減が、前年の速報値との比較で掲載されてきたが、本年からは、前年のCD-ROM版の数値との比較を掲載する事とした。

(1) わが国の慢性透析療法の要約 (図表1)

施設数		4,152施設	(19施設増)	0.5%増
設備	パーシェント スティション	118,135台	(3,156台増)	2.7%増
能力	同時透析	116,312人	(2,825人増)	2.5%増
	最大収容能力	393,731人	(10,201人増)	2.7%増

慢性透析患者	297,126人	(6,465人増)
--------	----------	-----------

※慢性透析患者の総数は、シート1患者総数欄の合計であり、治療方法別患者数の合計とは必ずしも一致しない。

人口100万対比	2,320.3人	(40.8人増)
----------	----------	----------

昼間	245,204人	(82.5%)
夜間	41,914人	(14.1%)
在宅血液	279人	(0.1%)
腹膜透析	9,728人	(3.3%)

HD、HDF等とPDを併用している患者数	1,978人
腹膜カテーテルを残している洗浄患者など	422人
腹膜透析新規導入、年内脱落患者数	137人

導入患者数	37,532人	(34人減)	0.1%減
死亡患者数	28,423人	(777人増)	2.8%増

上記は施設調査による集計

	男性	女性	不詳	計
5年未満透析患者数	90,055	48,179	3	138,237 (48.2%)
5年以上10年未満透析患者数	45,072	27,529	0	72,601 (25.3%)
10年以上15年未満透析患者数	21,286	14,735	0	36,021 (12.6%)
15年以上20年未満透析患者数	10,503	8,240	0	18,743 (6.5%)
20年以上25年未満透析患者数	5,520	4,750	0	10,270 (3.6%)
25年以上透析患者数	6,079	5,062	0	11,141 (3.9%)

患者調査による集計

最長透析歴	42年8ヵ月
-------	--------

患者調査による集計

解説

今回の調査で回答された施設は4,152施設となり、前年度と比べ19施設（0.5%）増加した。パーシェントスティションは118,135台であり3,156台の増加、同時透析可能人数は116,312人、最大収容能力は393,731人であり、その増加率は約2.7%であった。

昼間透析の割合は82.5%で前年度の割合より0.3%増加し、夜間透析は14.1%で0.3%減少した。夜間透析の減少は近年一定した傾向である。在宅血液透析患者は279人であり、43人増加した。一方、腹膜透析患者数は9,728人で、130人減少し、全透析患者数に占める割合も3.3%と0.1%減少した。2009年末から腹膜透析患者と血液透析の併用状況の調査を加えたが、併用患者は1,978人で258人増加し、血液透析を行っているがカテーテルは入っている（洗浄のみ）患者が422人いることが判明した。2010年に新規導入したが年内に腹膜透析から脱落した患者は137人であった。

20年以上の透析患者数は21,411人で前年度と比べ785人増加し、全透析患者の中の割合で7.5%と年々漸増している。最長透析歴は42年8ヶ月であった。